

# 特 定 非 営 利 活 動 法 人 ガ ジ ュ マ ル

## 定 款

### 第 1 章 総 則

(名称)

第 1 条 この法人は、特定非営利活動法人ガジュマルと称する。

(事務所)

第 2 条 この法人は、事務所を群馬県前橋市日吉町二丁目 2 7 番地 1 3 に置く。

(目的)

第 3 条 この法人は、介護が必要な障がい者・高齢者、自立支援の必要な若者などとその介護者・保護者が心身ともに健やかで当たり前の生活ができるように、その支援に関する事業を行い、社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動

(事業)

第 5 条 この法人は、第 3 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
  - ① 障害者総合支援法における地域生活支援事業
  - ② 障害者総合支援法における地域自立支援事業
  - ③ 介護保険事業
  - ④ 障害者総合支援法における障害福祉サービス事業
  - ⑤ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 第 2 章 会 員

(種別)

第 6 条 この法人の会員は、次の 3 種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2) 活動会員 この法人の目的に賛同して入会し法人の活動に参加する個人又は団体
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体

(入会)

第 7 条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事会の議決を経て理事長が別に定める入会申込書により理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項のもの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第 8 条 会員は、理事会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格喪失)

第9条 会員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。
- (2) 本人が死亡し、若しくは失そう宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、理事会の議決により、当該会員を除名することができる。この場合、理事会において議決する前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この法人の定款、規則等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既に納入した入会金、会費その他の抛出金品は、返還しない。

### 第3章 役員及び職員

(種類及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 5人以上10人以内
  - (2) 監事 1人以上2人以内
- 2 理事のうち、1人を理事長、1人を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事は理事会において選任し、監事は総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることにはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め、総会の議決及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
  - (1) 理事の業務執行状況を監査すること。
  - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
  - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
  - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、又は理事会の招集を請求すること。

(任期)

第16条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠又は増員により選任された役員任期は、それぞれ前任者又は現任者の残任期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号のいずれかに該当する場合は、理事は理事会の議決、監事は総会の議決により、当該役員を解任することができる。この場合、理事会又は総会において議決する前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があると認められるとき。

(報酬等)

第19条 役員には、報酬を与えることができる。ただし、役員のうち報酬を受ける者の数は、役員総数の3分の1以下でなければならない。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

2 職員は、理事長が任免する。

## 第4章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

(1) 定款の変更

(2) 解散

(3) 合併

(4) 事業報告及び活動決算

(5) 監事の選任又は解任

(6) その他運営に関する重要事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

(1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。

- (2) 正会員総数の3分の1以上から会議の目的を記載した書面により、招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第4号の規定により、監事が招集するとき。

(招集)

第25条 総会は、第24条第2項第3号の場合を除き理事長が招集する。

- 2 理事長は、第24条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から起算して45日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は書面に代わる電磁的方法によって、少なくとも総会の開催の日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した正会員の2分の1以上の同意があった場合は、この限りではない。

- 2 総会の議事は、この定款に別に定めるもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(社員の表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等とする。

- 2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面、又は書面に代えて電磁的方法により表決し、若しくは他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、第27条、第28条第2項、第30条第1項第2号、第52条及び第54条の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
  - (2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者、電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあつては、その数を付記すること。）
  - (3) 審議事項
  - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。

## 第5章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第 32 条 理事会は、この定款で別に定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第 33 条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の 3 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第 15 条第 5 項第 5 号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第 34 条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第 2 号及び第 3 号の規定による請求があったときには、その日から起算して 30 日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は書面に代わる電磁的方法によって、少なくとも理事会の開催の日の 10 日前までに通知しなければならない。

(議長)

第 35 条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(定足数)

第 36 条 理事会は、理事総数の過半数の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第 37 条 理事会における議決事項は、第 34 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、この定款に別に定めるもののほか、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事の表決権等)

第 38 条 各理事の表決権は、平等とする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は書面に代わる電磁的方法により表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、第 36 条、第 37 条第 2 項及び第 39 条第 1 項第 2 号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 39 条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
  - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者、電磁的方法による表決者がある場合にあっては、その旨を付記すること。）
  - (3) 審議事項
  - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名、押印しなければならない。

## 第 6 章 資産及び会計

(資産の構成)

第40条 この法人の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第41条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産とする。

(財産の管理)

第42条 この法人の資産は、理事長が管理し、その管理方法は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第43条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分等)

第44条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計とする。

(事業計画及び予算)

第45条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第46条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前年度の予算に準じて収益費用を講じることができる。

- 2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第47条 予算超過又は予算外の費用に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

- 2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第48条 予算作成後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第49条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の承認を経なければならない。

- 2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第50条 この法人の事業年度は、毎年8月1日に始まり翌年7月31日に終わる。

(臨機の措置)

第51条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務を負担し、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

## 第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第52条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会において、その出席した正会員の4分の3以上の議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第53条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
  - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
  - (3) 正会員の欠亡
  - (4) 合併
  - (5) 破産手続開始の決定
  - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。
- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認証を得なければならない。
- 4 この法人が解散したときは、合併及び破産手続開始の決定の場合を除き、理事を清算人とする。

(残余財産の処分)

第54条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散の場合を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会に出席した正会員の過半数をもって決した者に譲渡するものとする。

(合併)

第55条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第8章 公告の方法

(公告の方法)

第56条 この法人の公告は、官報に掲載して行う。

ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページに記載して行う。

## 第9章 雑則

(細則)

第57条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

## 附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、当分の間、徴収しないこととする。
- 3 この法人の設立当初の役員は、第14条第1項及び第2項の規定にかかわらず、別表のとおりとし、その任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、設立の日から令和6年9月

30日までとする。

4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第45条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

5 この法人の設立初年度の事業年度は、第50条の規定にかかわらず、設立の日から令和5年7月31日までとする。

**別 表**

役職名	氏 名	備 考
理事	清水 丈	理事長
〃	清水 綾	副理事長
〃	石井 瞳	
〃	中島 陽子	
〃	星名 奏那依	
〃	根岸 美恵子	
監事	高橋 真理	

これは、当法人の定款である。

理事 清水 丈



(様式例2)

## 役員名簿

(特定非営利活動法人の名称)

特定非営利活動法人 ガジュマル

役職名	氏名	住所又は居所	報酬の有無	備考
理事	清水 丈		有	理事長
理事	清水 綾		無	副理事長
理事	石井 瞳		無	
理事	中島 陽子		無	
理事	星名 奏那依		無	
理事	根岸 美恵子		無	
監事	高橋 真理		無	

(備考)

- 1 「役職名」欄には、理事、監事の別を記載する。
- 2 「住所又は居所」欄には、群馬県特定非営利活動促進法施行条例第2条第2項に掲げる書面により証された住所又は居所を記載する。
- 3 「報酬の有無」欄には、各役員について、報酬を受ける者には「有」、受けない者には「無」を記載する。
- 4 「備考」欄には、理事長、副理事長等を記載する。



(様式例6)

## 設 立 趣 旨 書

### 1 設立の趣旨

世界に類をみない速さで高齢化が進む我が国。2025年には国民の4人に1人が65歳以上という社会を迎えることが予測されます。また、8050問題もその社会の変化に伴い、加速傾向にあるといえます。8050問題の原因は、1980～1990年代にかけて顕在化した若者の“引きこもり”を放置したことにあると多くの専門家は指摘しています。若者が数十年間も引きこもり生活を続け、50代を迎えた時に、親が現役世代ならば収入もある程度は見込めるため、引きこもりの子どもを養っていくのはそう難しくありません。しかし、定年を迎え、経済的にも体力的にも衰えた状態で支え続けることは難しいと考えます。引きこもりの要因も多種多様とは考えますが、学齢期に手厚く支援を受けられた発達障害の傾向をもつ方々が高校進学や就職といった、それまでの生活環境とは違い自己責任を問われる状況になりうつ病などの精神のバランスを失い社会生活が成り立たなくなることも多く見られます。

また、現在の社会情勢を要因とする、企業の経営困難状況。それに伴い、ハンディキャップをもつ方々の雇用状況も雇止めあるいは解雇などの厳しい状況となっています。

吾妻地域では、福祉サービスの選択肢が少なく利用者の需要と提供するサービス提供の側にも課題が大きく、障害を抱える方々が自分のニーズに合ったサービスを十分に検討し選ぶことができない状況にあります。特に、働く意欲があっても就労場所を得られず社会参加ができない状況が多く見られます。

今日、一人ひとりが自分らしく生きる基盤づくりが求められてきていると感じます。当法人は、このような状況を受けて、一人でも多くの方々に働き場を提供し生き生きと人生を楽しむ充実した日常を提供したいと考えています。

この法人は、2015年からハンディキャップをもつ若者の支援を行ってきた教師、保護者、臨床心理士などが、主に障害者や学齢期の児童生徒の支援に関する情報交換や勉強をする会として発足し研修を重ねてきました。

法人格を取得することにより、社会的信用度を確立し、地域の福祉水準向上のために、手を携えて進んでいきたいと思えます。「就労に意欲のある方の夢を叶える支援をめざして」を合言葉に、相互に支え合う福祉のまちを目指して、特定非営利活動法人ガジュマルを設立します。

### 2 設立申請に至るまでの経過

令和4年12月20日 特定非営利活動法人設立のための第1回検討会開催

令和4年12月28日 特定非営利活動法人設立のための第2回検討会開催

令和5年1月6日 発起人会開催

令和5年1月24日 設立総会開催

令和5年1月28日

名 称 特定非営利活動法人 ガジュマル

設立(代表)者

住 所

氏 名 清水 文

(様式例8)

## 令和4年度事業計画書

特定非営利活動法人 ガジュマル

### 1 事業実施の方針

ガジュマル設立後は、多機能型事業所の開設に向けて申請や事業所を開設するための施設整備等を主な事業とする。尚、新事業所開設は令和5年8月1日を目途とし進めることとする。

新規多機能型事業所を開設後は、新規事業所の運営が主な活動となる。

### 2 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数
福祉事業所 開設準備	多機能型事業所ガジュ マル事業所開設準備業 務	令和5年 2月～7 月	群馬県渋川 市北橋村下 箱田626 -27	0名	0名

(様式例8)

## 令和5年度事業計画書

特定非営利活動法人 ガジュマル

1 事業実施の方針

新規多機能型事業所を開設し、事業所の運営を行う。

2 事業の実施に関する事項

(2) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数
多機能型事業所ガジュマル	多機能型事業所の運営	令和5年 8月1日 ～	群馬県渋川 市北橋村下 箱田626 -27	10名	20名

# 令和<sup>4</sup>年度活動予算書

設立から令和 5年 7月31日まで

特定非営利活動法人ガジュマル  
(単位：円)

科目	金額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費		
賛助会員受取会費		
.....		0
2. 受取寄附金		
資産受贈益		
		0
3. 受取助成金等		
受取補助金		
		0
4. 事業収益		
障害者就労支援事業A型収入		
		0
5. その他収益		
受取利息		
雑収益		
		0
経常収益計		0
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬		
給料手当		
賞与		
雑給		
法定福利費		
退職給付費用		
福利厚生費		
人件費計		0
(2) その他経費		
売上原価		
広告宣伝費		
荷造運賃		0
減価償却費		
賃借料		
修繕費		
事務用品費		0
消耗品費		
水道光熱費		
旅費交通費		
手数料		
租税公課		
接待交際費		
通信費		
諸会費		
車輛費		
新聞図書費		
地代家賃		
会議費		
外注費		
支払利息		
雑費		
その他経費計		0
事業費計		0

2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬			
給料手当			
賞与			
法定福利費			
退職給付費用			
福利厚生費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
広告費			
減価償却費			
修繕費			
消耗品費			
水道光熱費			
旅費交通費			
手数料			
租税公課			
接待交際費			
保険料			
通信費			
諸会費			
車輛費			
新聞図書費			
地代家賃			
会議費			
支払利息			
雑費			
その他経費計	0		
管理費計		0	
経常費用計			0
当期経常増減額			0
III 経常外収益			
1. 固定資産売却益			
経常外収益計		0	
IV 経常外費用			
1. 過年度損益修正損			
固定資産除却損			
経常外費用計		0	
税引前当期正味財産増減額			0
法人税、住民税及び事業税			
当期正味財産増減額			0
前期繰越正味財産額			
次期繰越正味財産額			0



# 令和5年度活動予算書

令和 5年8月1日から令和 6年7月31日まで

特定非営利活動法人ガジュマル  
(単位：円)

科目	金額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費		
賛助会員受取会費		
.....		0
2. 受取寄附金		
資産受贈益		0
3. 受取助成金等		
受取補助金		0
4. 事業収益		
障害者就労支援事業日型収入	45,000,000	
障害者生活介助事業収入	4,500,000	
負担金収入他		49,500,000
5. その他収益		
受取利息	0	
雑収益	0	
		0
経常収益計		49,500,000
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 大件費		
役員報酬	0	
給料手当	18,000,000	
賞与	3,000,000	
雑給	1,000,000	
法定福利費	1,200,000	
退職給付費用		
福利厚生費	1,000,000	
人件費計	24,200,000	
(2) その他経費		
売上原価	0	
広告宣伝費	500,000	
荷造運賃	0	
減価償却費	1,000,000	
賃借料	6,000,000	
修繕費	100,000	
事務用品費	0	
消耗品費	500,000	
水道光熱費	500,000	
旅費交通費	100,000	
手数料	0	
租税公課	5,000	
接待交際費	100,000	
通信費	200,000	
諸会費	0	
車輛費	1,500,000	
新聞図書費	0	
地代家賃	1,800,000	
会議費	0	
外注費	12,000,000	
支払利息	347,790	
雑費		
その他経費計	24,652,790	
事業費計		48,852,790

2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	2,400,000		
給料手当	0		
賞与	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
広告費	0		
減価償却費	0		
修繕費	0		
消耗品費	0		
水道光熱費	0		
旅費交通費	0		
手数料	0		
租税公課	0		
接待交際費	0		
保険料	0		
通信費	0		
諸会費	0		
車輛費	0		
新聞図書費	0		
地代家賃	0		
会議費	0		
支払利息	0		
雑費	0		
その他経費計	0		
管理費計	2,400,000		
経常費用計			51,252,790
当期経常増減額			△ 1,752,790
Ⅲ 経常外収益			
1. 固定資産売却益			
経常外収益計		0	
Ⅳ 経常外費用			
1. 過年度損益修正損			
固定資産除却損	0		
経常外費用計		0	
税引前当期正味財産増減額			△ 1,752,790
法人税、住民税及び事業税			145,811
当期正味財産増減額			△ 1,898,601
前期繰越正味財産額			0
次期繰越正味財産額			△ 1,898,601